

品種名	ノイバラ（別名：ロサ・ムルチフローラ） Rosa multiflora
系統	原種 [Sp]
作出者（国）	—（日本）
作出年	—
説明	房咲き品種の祖となったバラ。 純白の平咲き 開花習慣は一季咲き。強い芳香がある。 5月から6月に多数の花を円錐形の房状につける。 日本のノイバラの代表的な種。 沖縄以外の日本各地の山野に多く自生し、枝に鋭いとげがある。 夏になるとつく赤い果実は、「営実（えいじつ）」と呼ばれる生薬で、便秘の治療に薬用される。 野生種の種類には実をつけるものもあり、実はローズヒップと言われ紅茶やリースなどに使われている。 ローズヒップはビタミンCなどの栄養が豊富で、レモンの約20倍のビタミンCが含まれている。 一般的にはとげがあり花色は白いのだが、とげがないものや、淡い桃色に変化したものなど、変異個体が多くある。 ☆耐病性、耐寒性、耐暑性に優れているため初心者でも簡単に栽培することができる。

